

室蘭山(測量山)

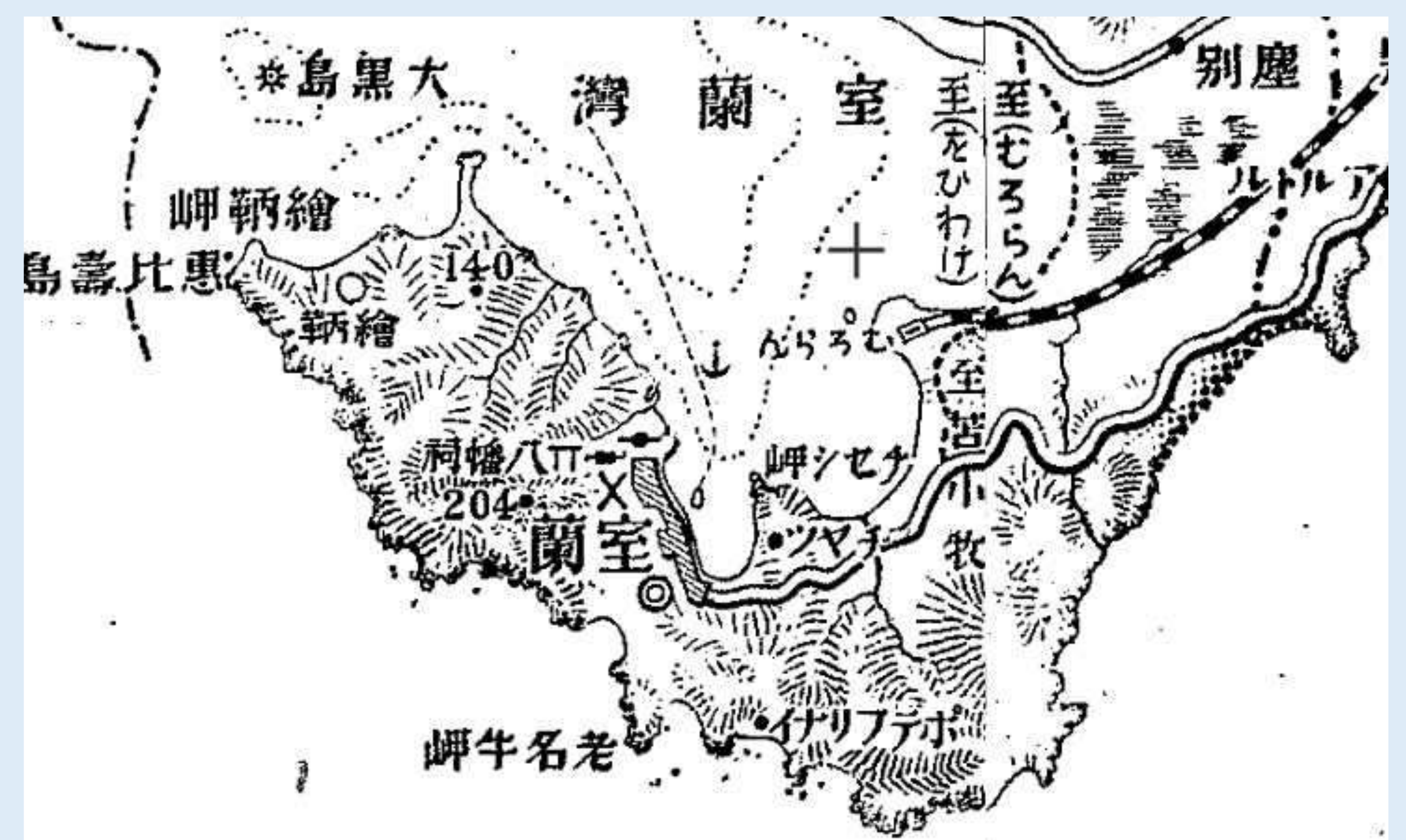


スケッチポイントは現在の崎守町付近と推定されます。

絵の室蘭山の中央に注記はないですが、測量の櫓（やぐら）が描かれています。この一等三角点「室蘭山（通称：測量山）」は明治29年11月9日の選点ですので、この絵は、選点後に描かれたものと思われる。



地理院地図3Dで再現した現在の室蘭山



北海道は、ほぼ全域にわたり明治29年（1896年）～同31年にかけて北海道庁による（仮製）5万分1測図が作成されています。

現在の地理院地図丸印の地点から矢印の方向を見て描いたと思われる。

有珠山



胆振国虻田郡洞爺湖
向洞爺之眺望

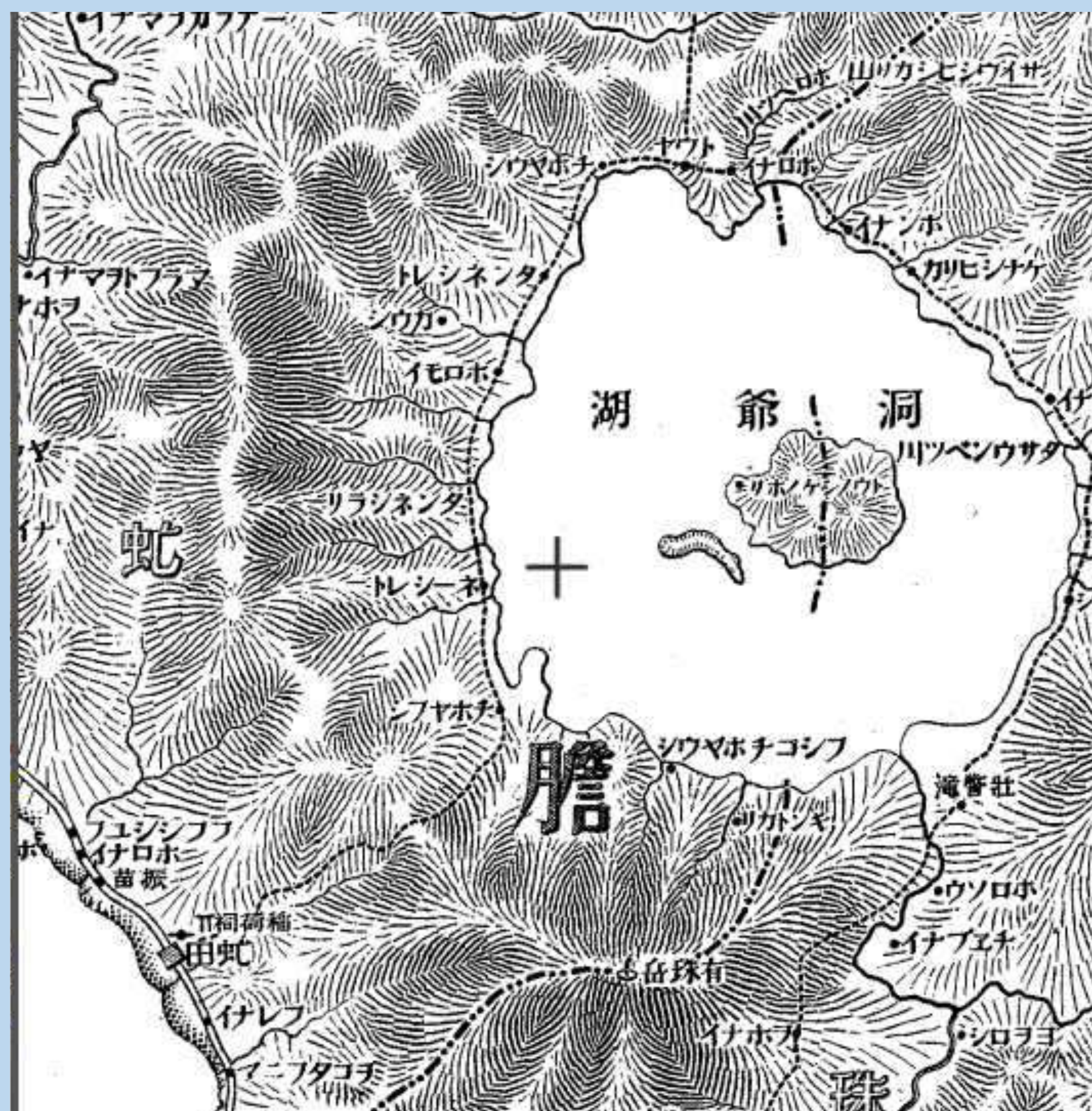
スケッチ：明治30年8月3日
このスケッチの前月31日、洞爺湖北の真狩岳（羊蹄山）の選点を行い、その後の移動時に描いたものと推定されます。スケッチのポイントは洞爺湖北岸の洞爺町。中島の2つの山と有珠山の関係から現在の浮見堂付近と推定されます。



地理院地図3Dで再現した現在の有珠山



現在の地理院地図
丸印の地点から矢印の方向を見て描いたと思われます。



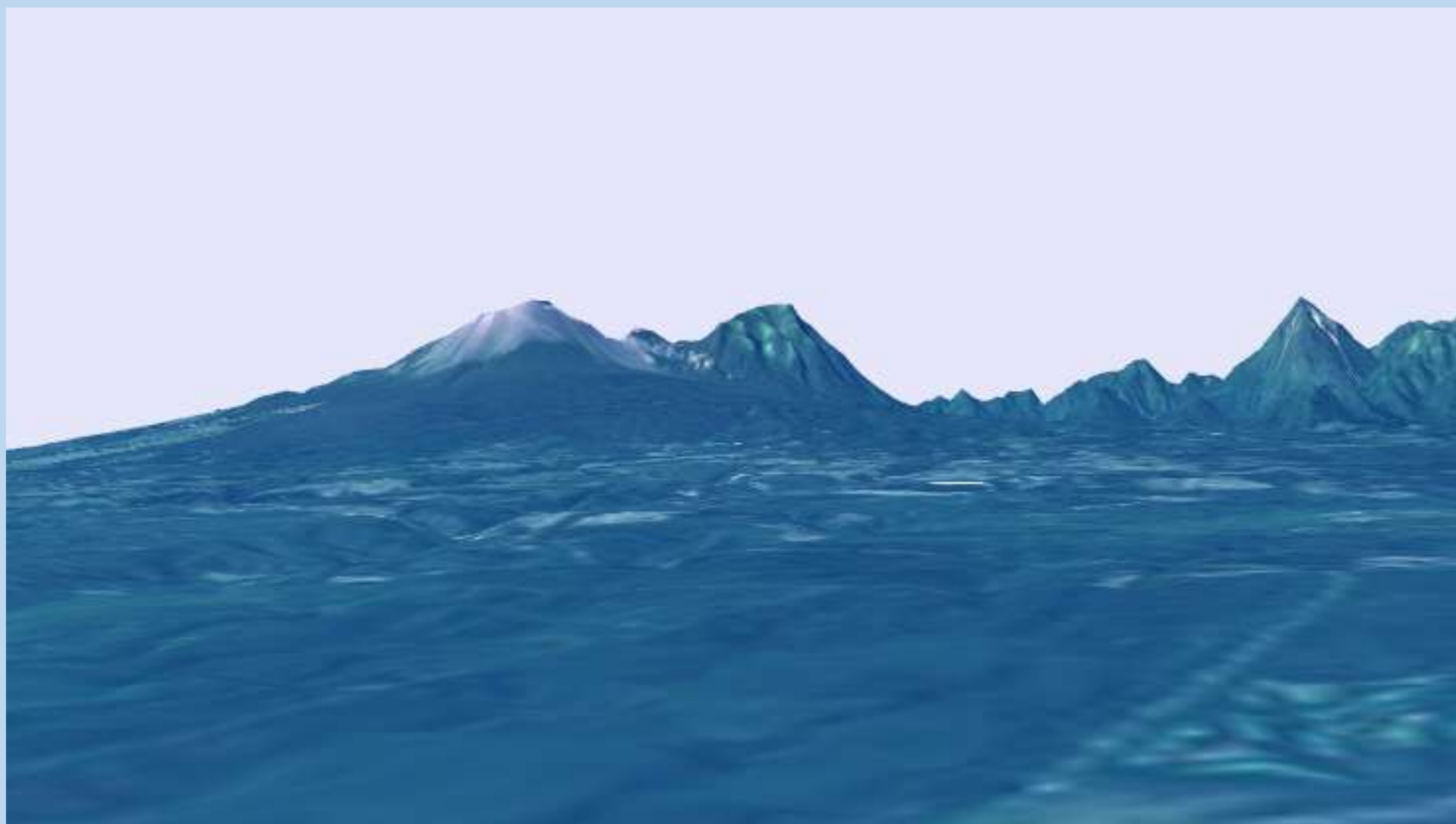
当時選点の際に使用したと思われる北海道庁による（仮製）5万分1測図。

樽前岳

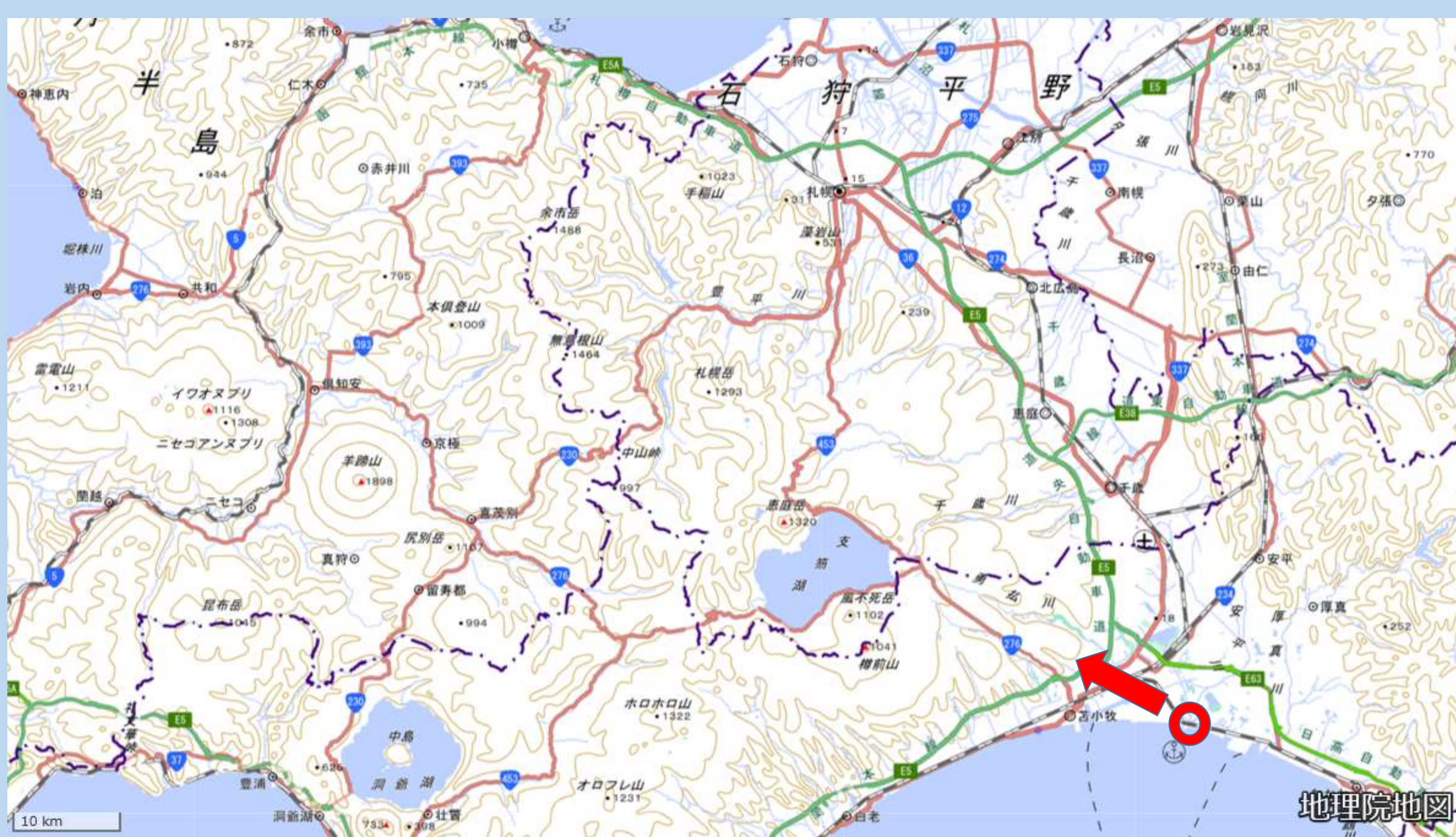


スケッチ：明治30年9月13日

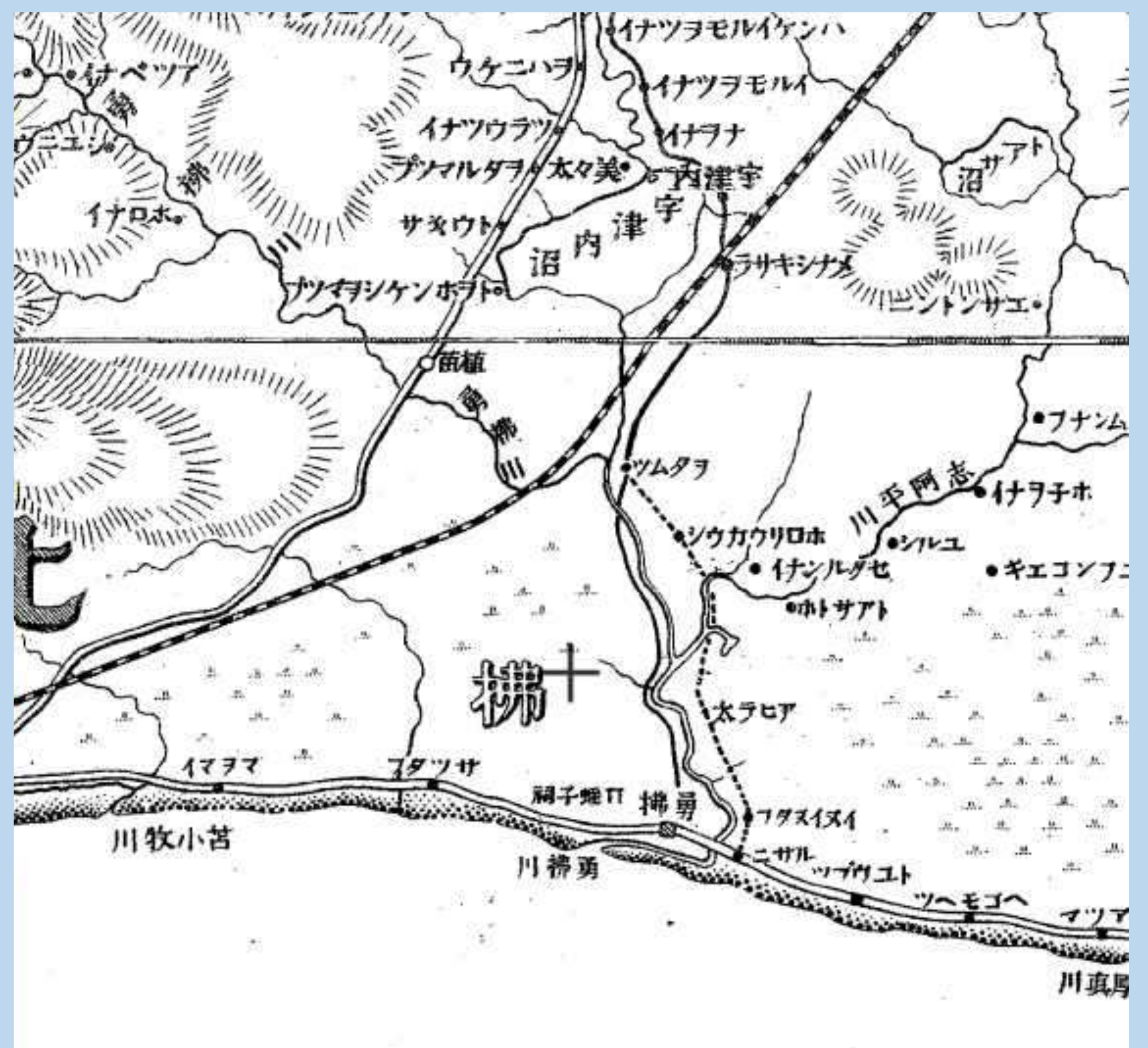
樽前岳は前年の明治29年11月16日に選点が完了しています。そのためか山頂に樽が記されています。スケッチ場所は、絵に注記されている勇払河口付近と想定されます。



地理院地図3Dで再現した現在の樽前岳



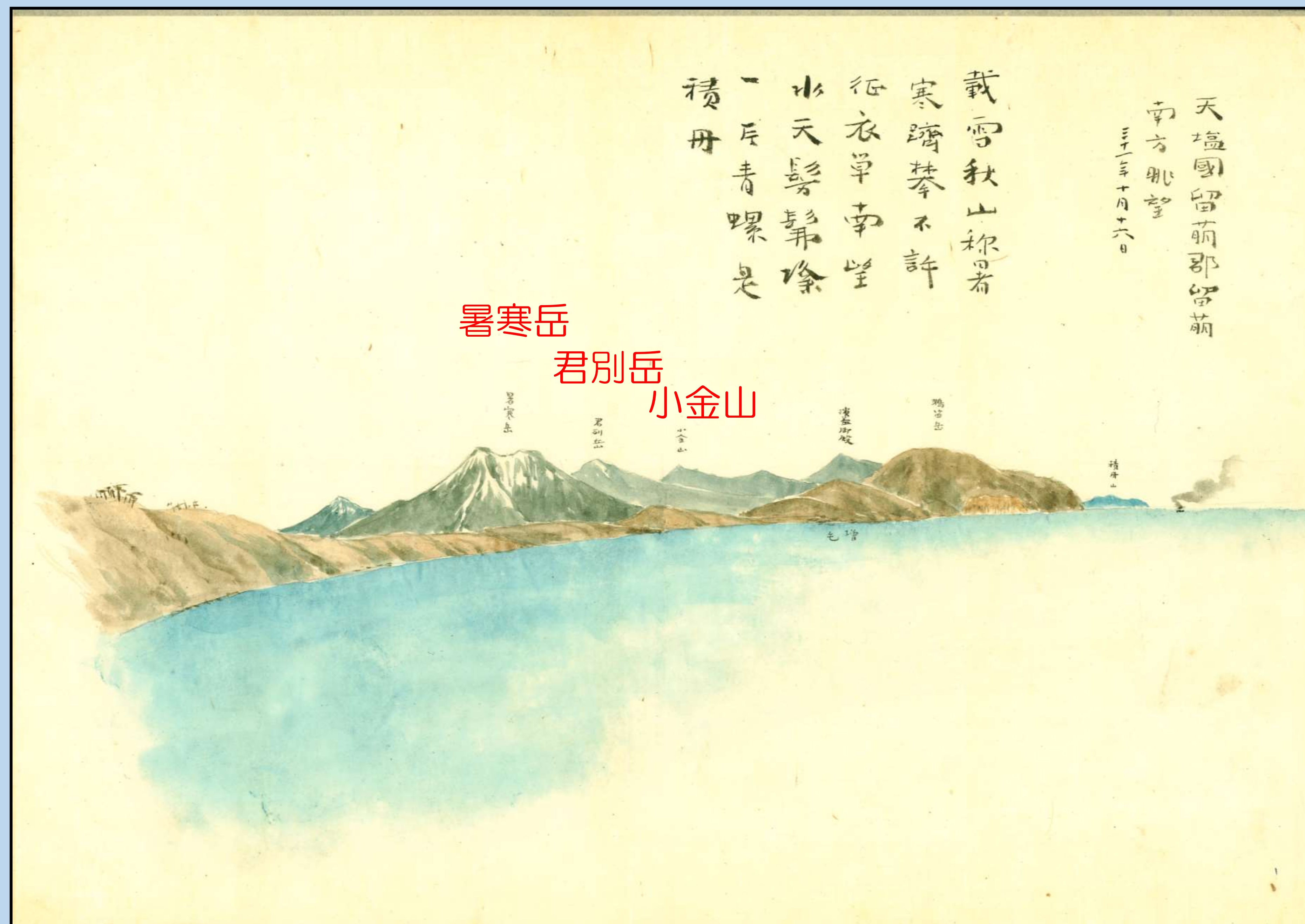
現在の地理院地図
丸印の地点から矢印の方向を見て描いたと思われます。



当時選点の際に使用したと思われる北海道庁による（仮製）5万分1測図。

絵の記載どおり勇払河口付近とすると。旧図（明治27年）では、河口が西に蛇行しており現在の河口位置と大きく異なります。

暑寒岳



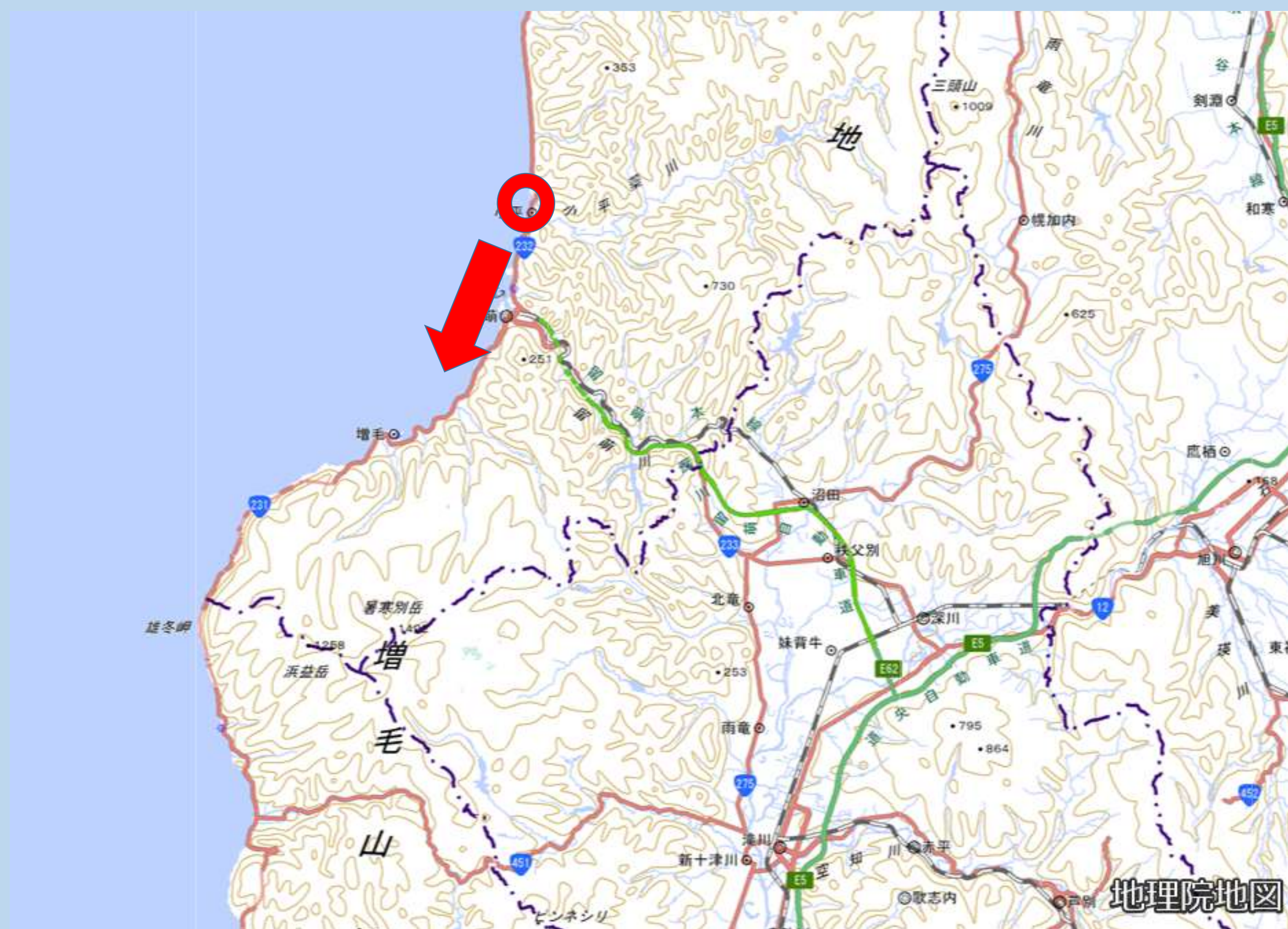
天塩國留萌郡留萌南方眺望

スケッチ：明治31年10月16日

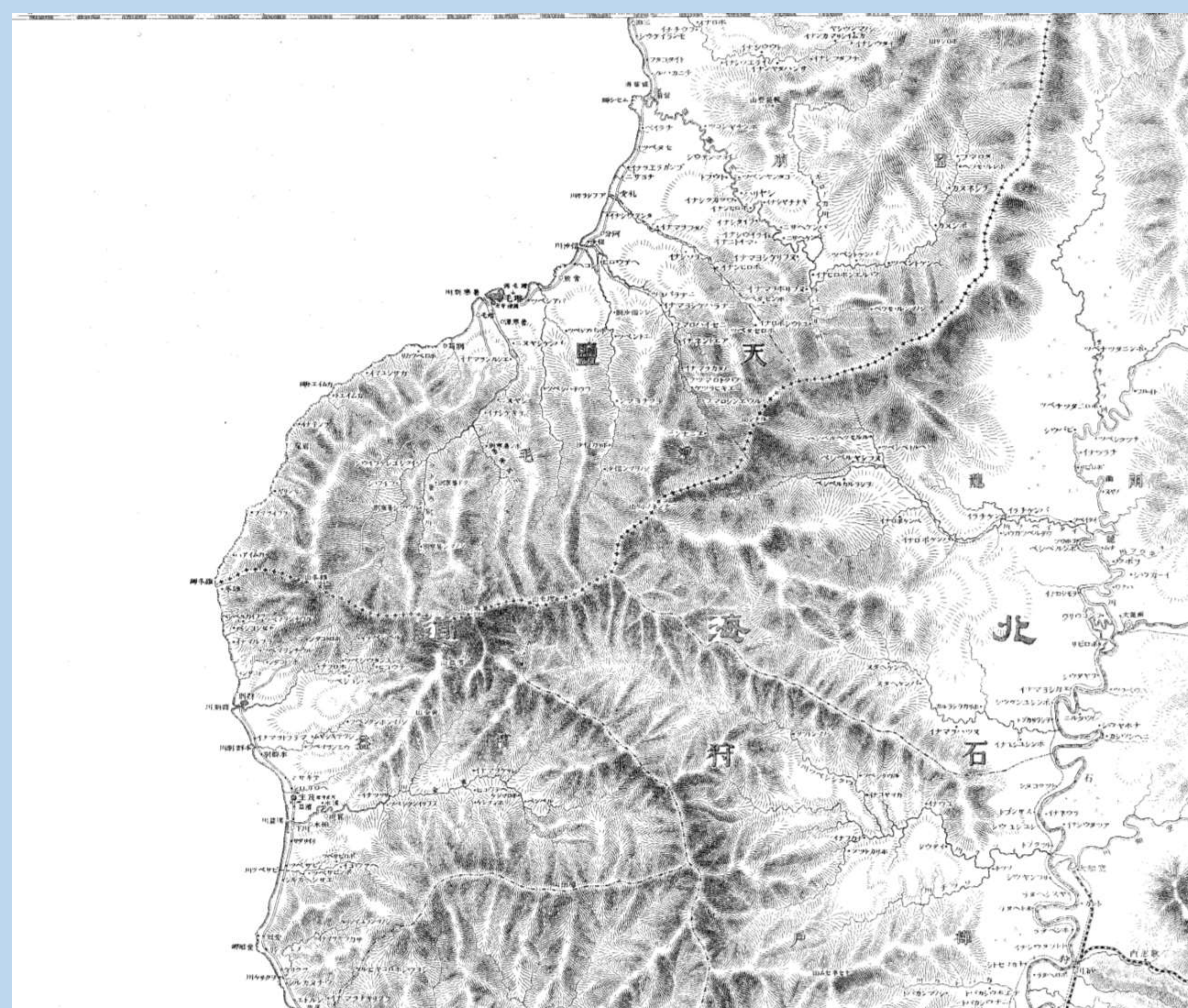
留萌南方の暑寒岳（暑寒別岳）の選点を行っているので、その頃に描いたものと推定されます。



地理院地図3Dでスケッチを再現しました。



現在の地理院地図
丸印の地点から矢印の方向を見て描いたと思われます。



20万分1輯製図 増毛

利尻島

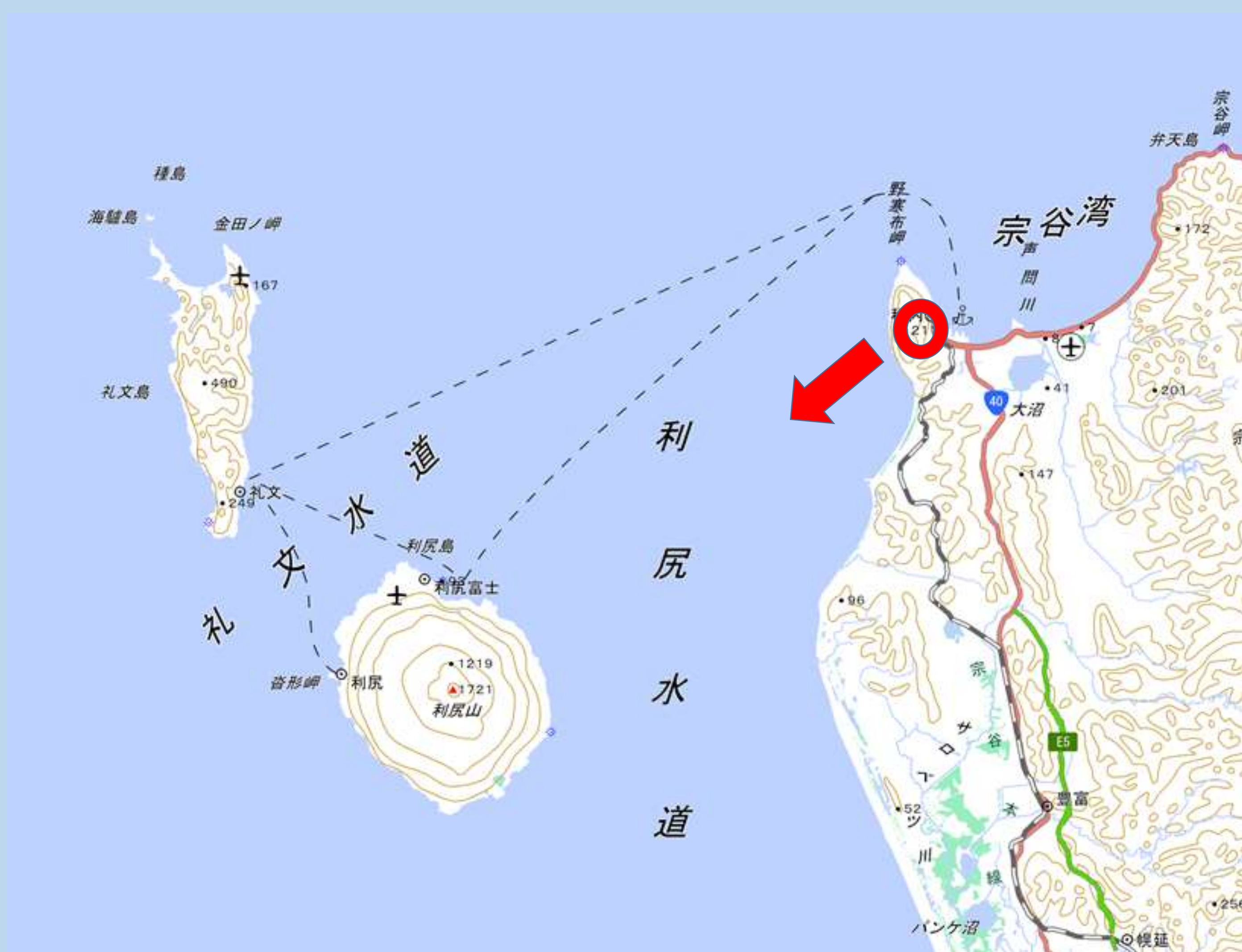


スケッチ：明治31年11月10日

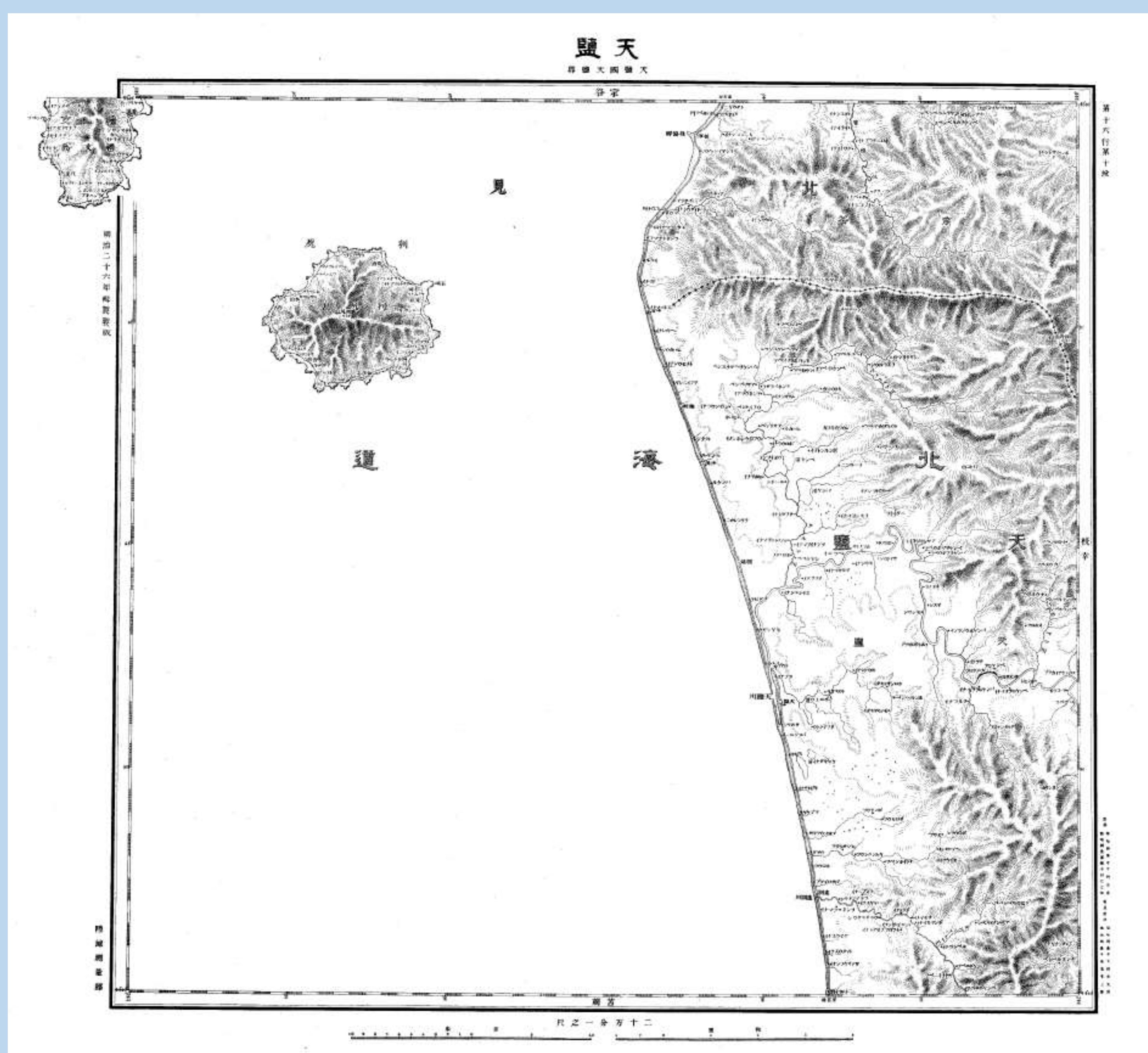
明治31年11月15日、稚内野寒布岬の筥射峰（のしゃぶ）の選点を行っているので、その際に描いたものと推定されます。



地理院地図3Dで再現した現在の利尻島



現在の地理院地図
丸印の地点から矢印の方向を見て描いたと思われます。



北海道は、ほぼ全域にわたり明治29年（1896年）～同31年にかけて北海道庁による（仮製）5万分1測図が作成されています。

ヌタックカムウシベ

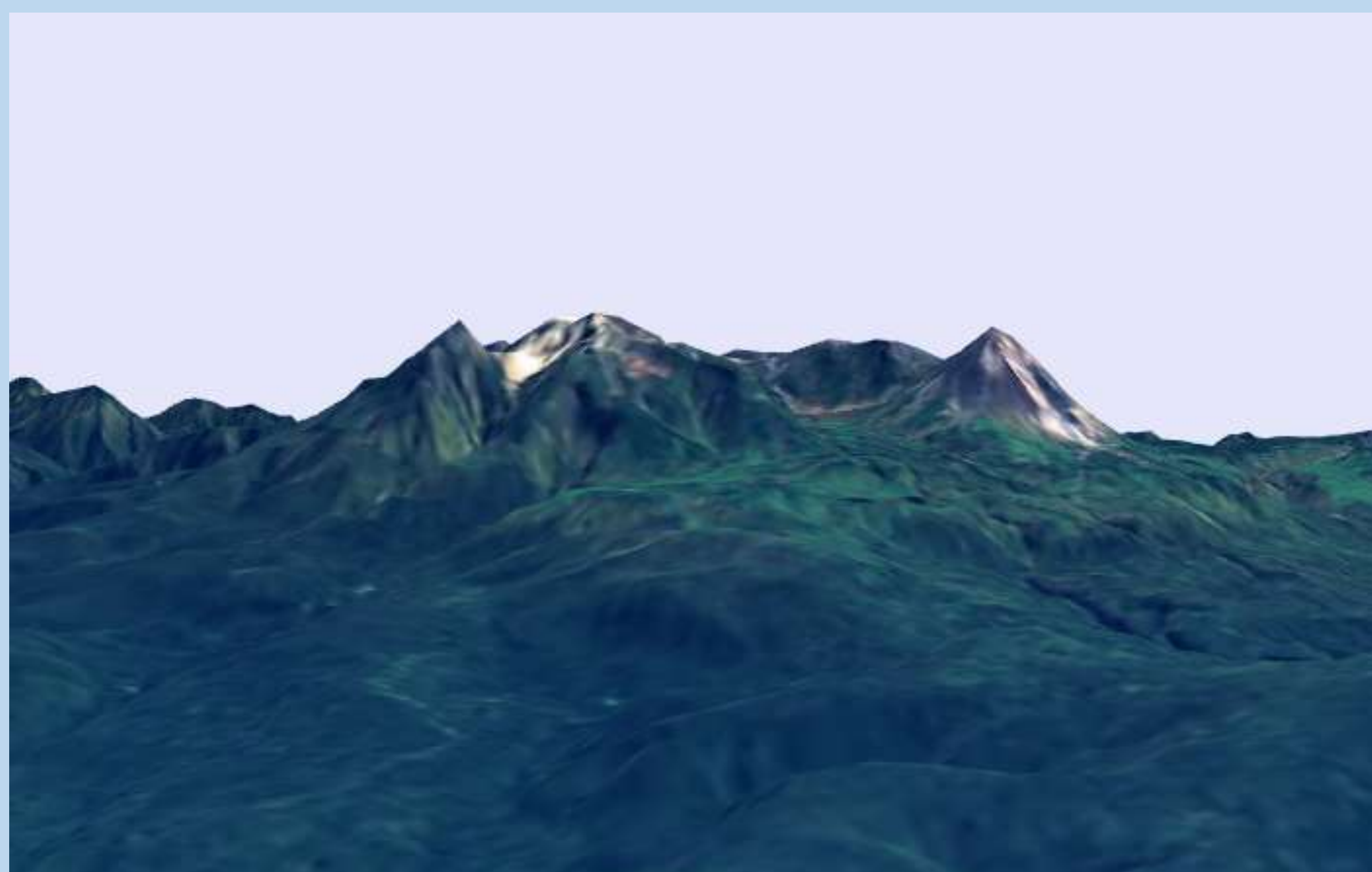


石狩国旭川旭日館より「ヌタックカムウシベ」の眺望

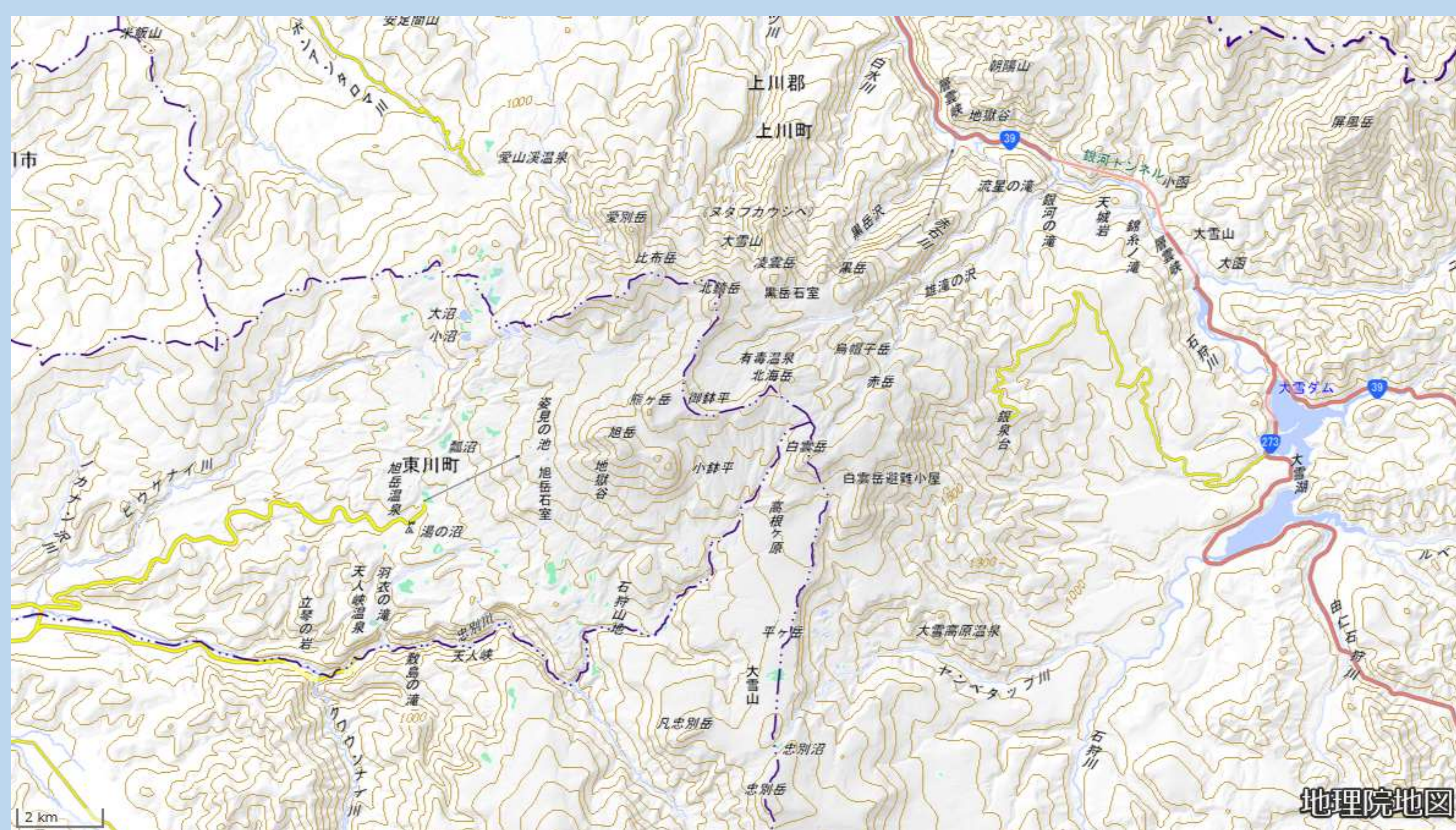
スケッチ：明治33年3月24日
タイトルの「ヌタックカムウシベ」は、大雪山のことだそうです。

この年の9月に館氏は瓊多窟（ヌタック）と選点命名しています。

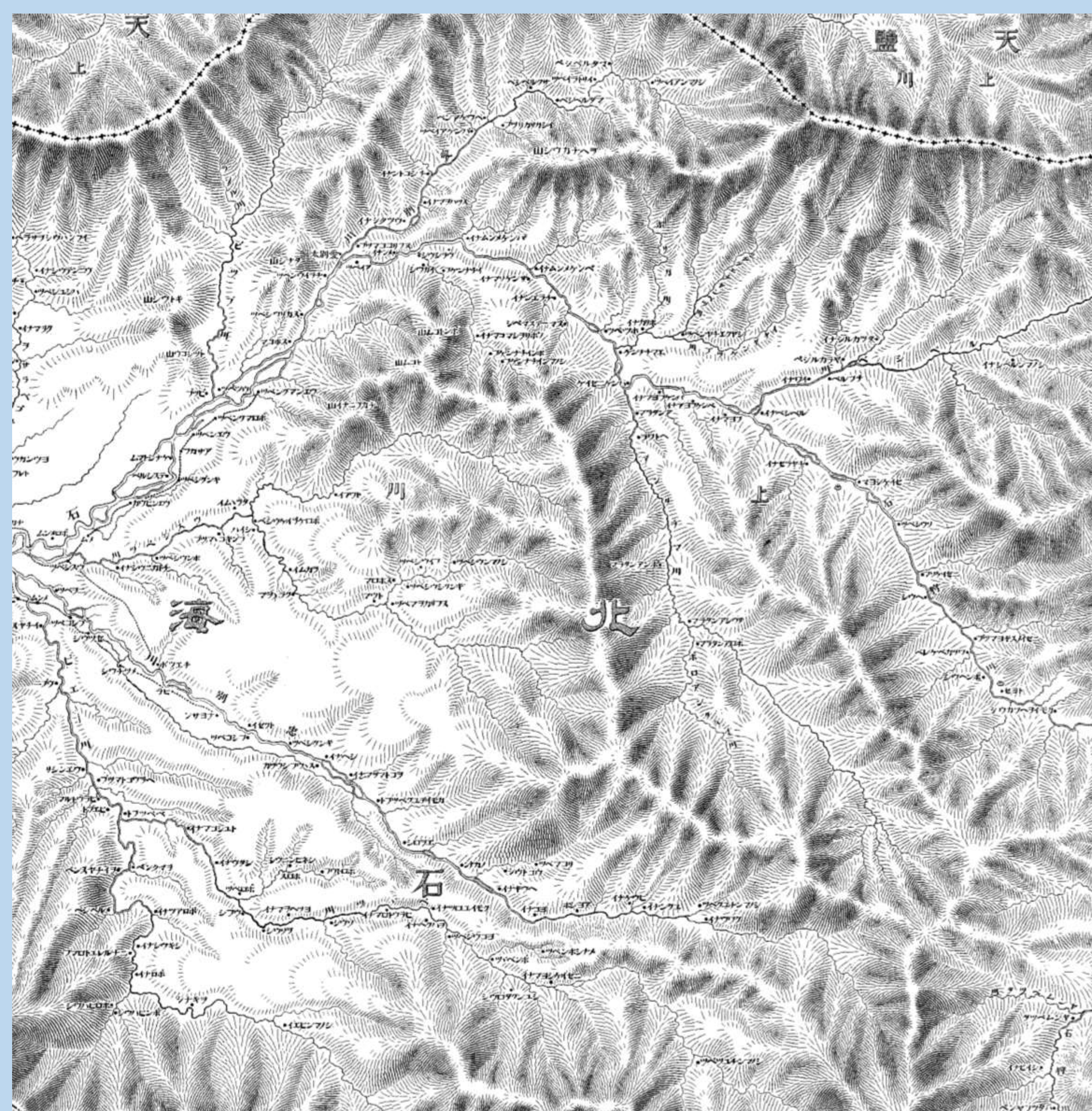
現在、旭日館は見当たりません。



地理院地図 3Dで再現した現在の
の大雪山

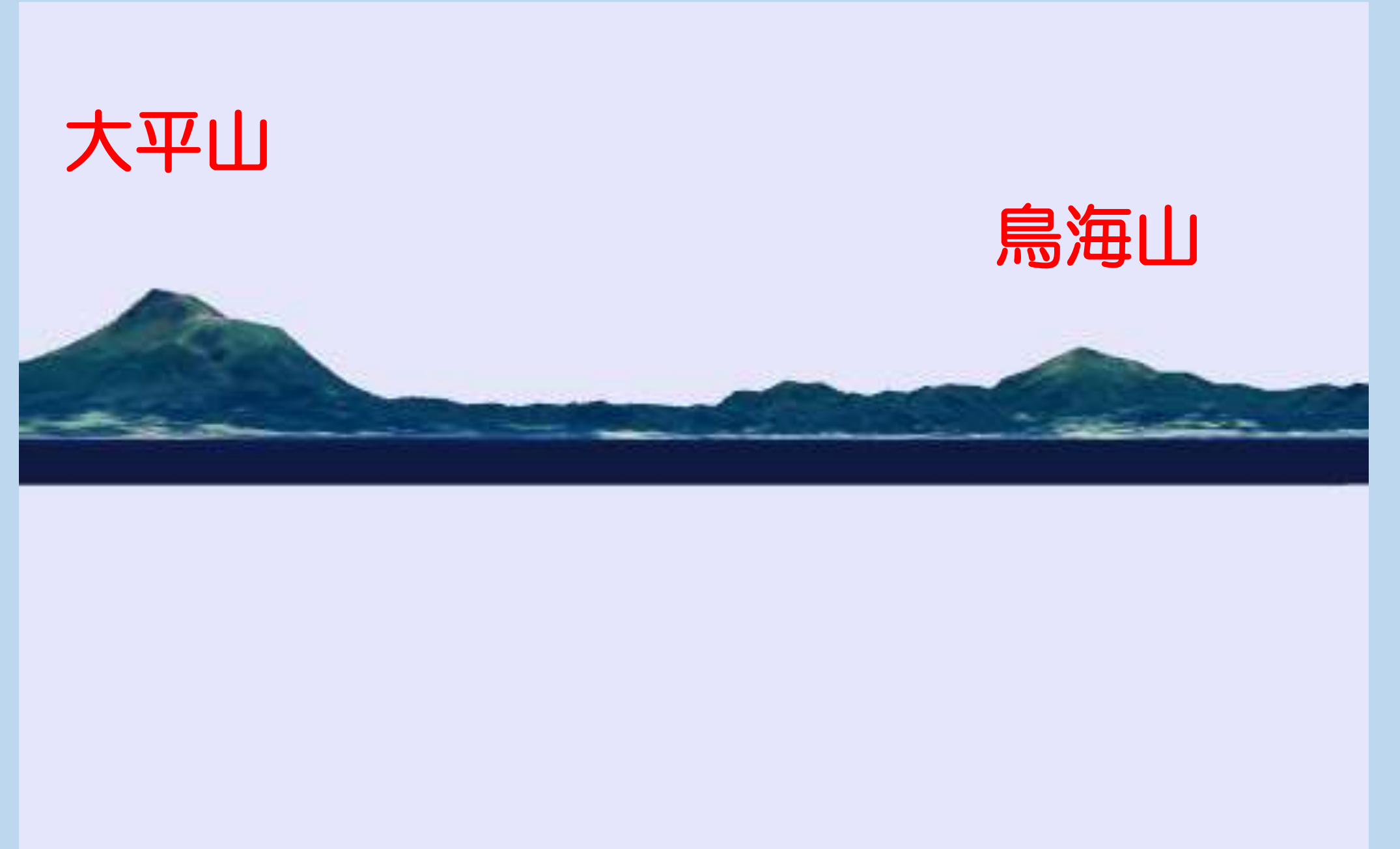
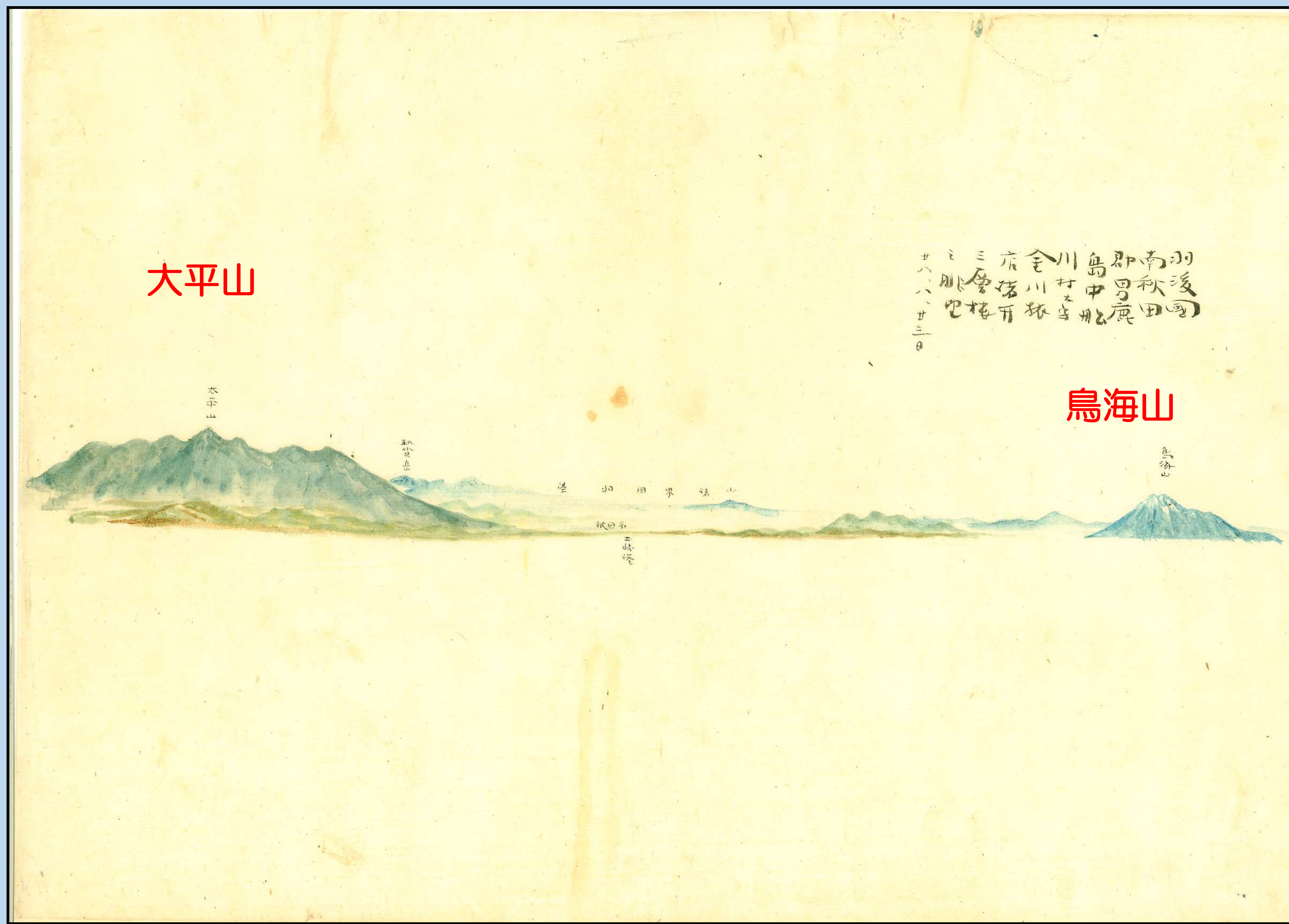


現在の地理院地図



右図は明治27年（1893年）の20万分1 輯製図です。この地図が更新されたのは昭和2年（1927年）のことであり、周辺の三等三角の選点が終了するまでは、20万分1 輯製図が使われたと想定されます。このあたりの（仮製）5万分1 測図は、明治31年（1888年）に作られています。

太平山



地理院地図3Dで再現した現在の太平山

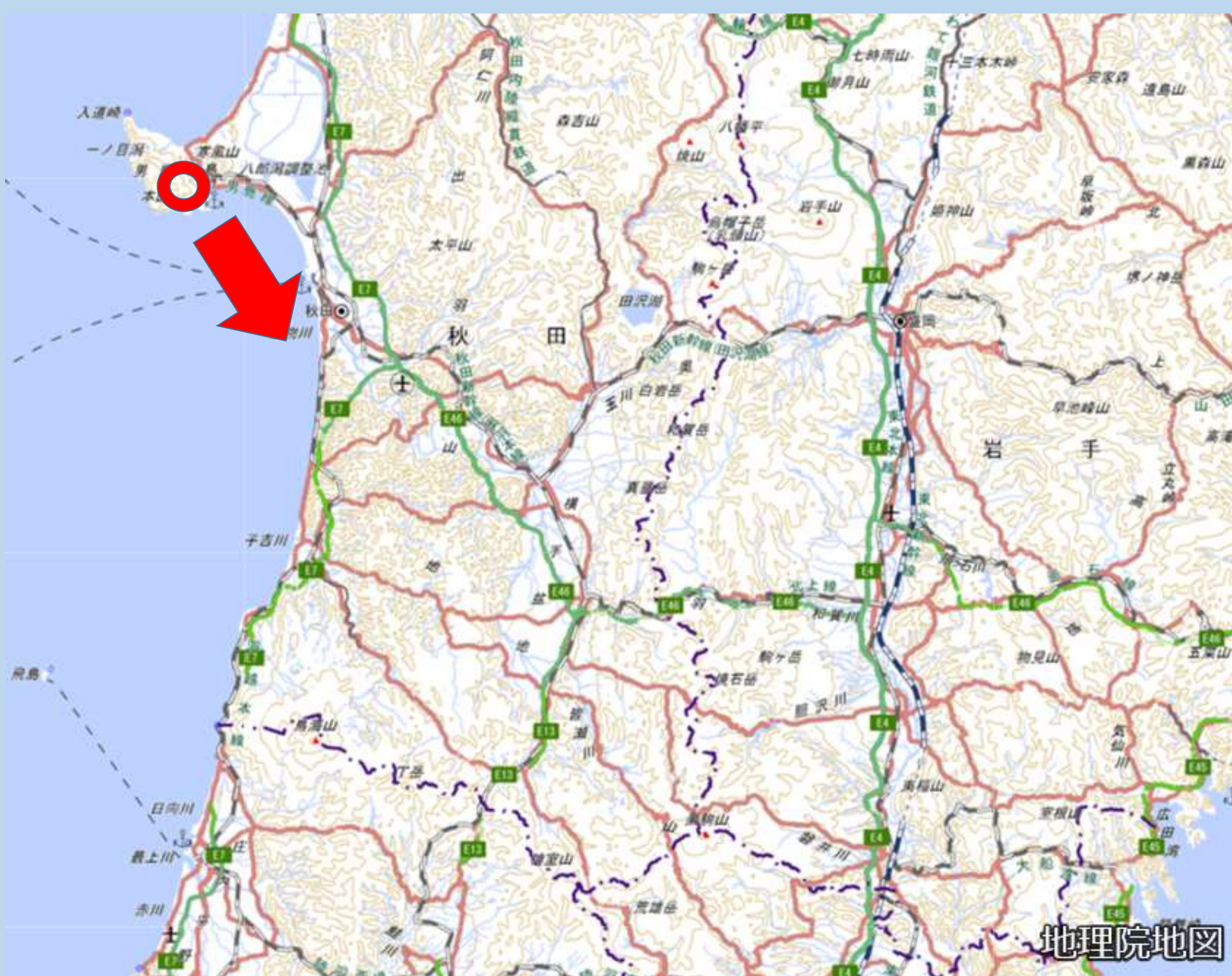
船川港の旅館より眺望

スケッチ：明治28年8月23日

場所：船川港金川

明治28年8月22日、男鹿半島の男鹿島の選点を行っていますので、選点翌日の23日がスケッチの日となっています。

鳥海山、太平山ともに男鹿島前に選点していますが、櫓は描かれていません。伊能もこの船川から鳥海山、太平山を観測していますので、館氏もこれを意識したのではと思われます。



現在の地理院地図
丸印の地点から矢印の方向を見て描いたと思われます。

20万分1 輯製図 秋田

歌登山



北見国紋別郡幌内村より西望

明治33年6～7月頃のスケッチと推定されます。

選点の前後かは不明だが、歌登山を描いています。



地理院地図3Dで再現した現在の地形

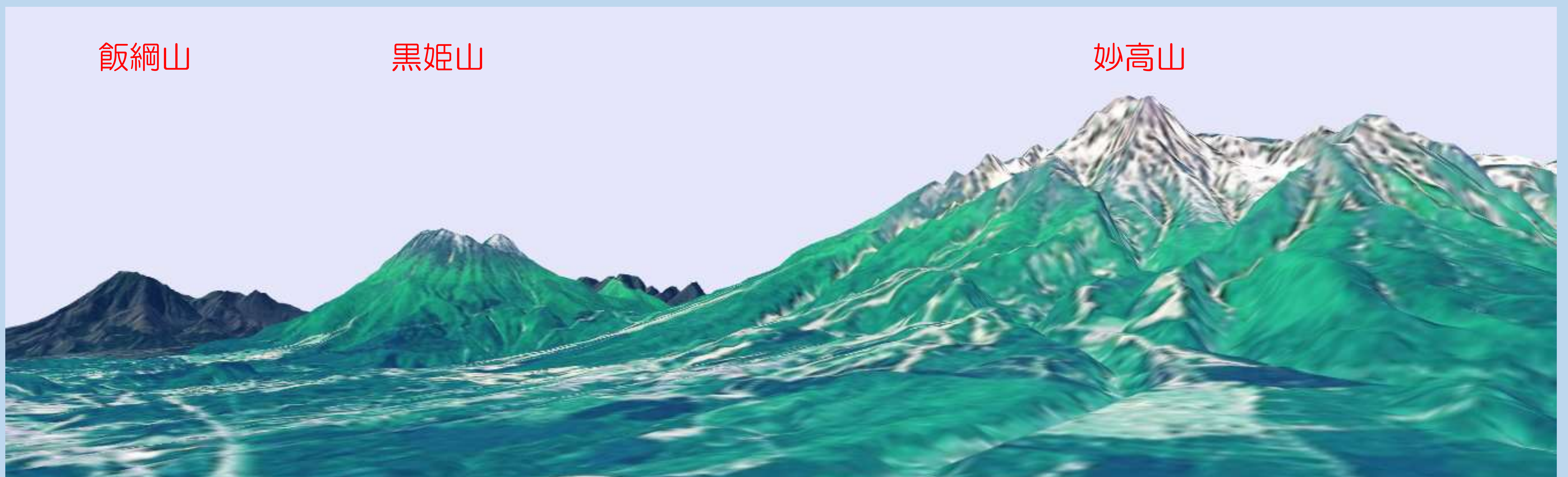
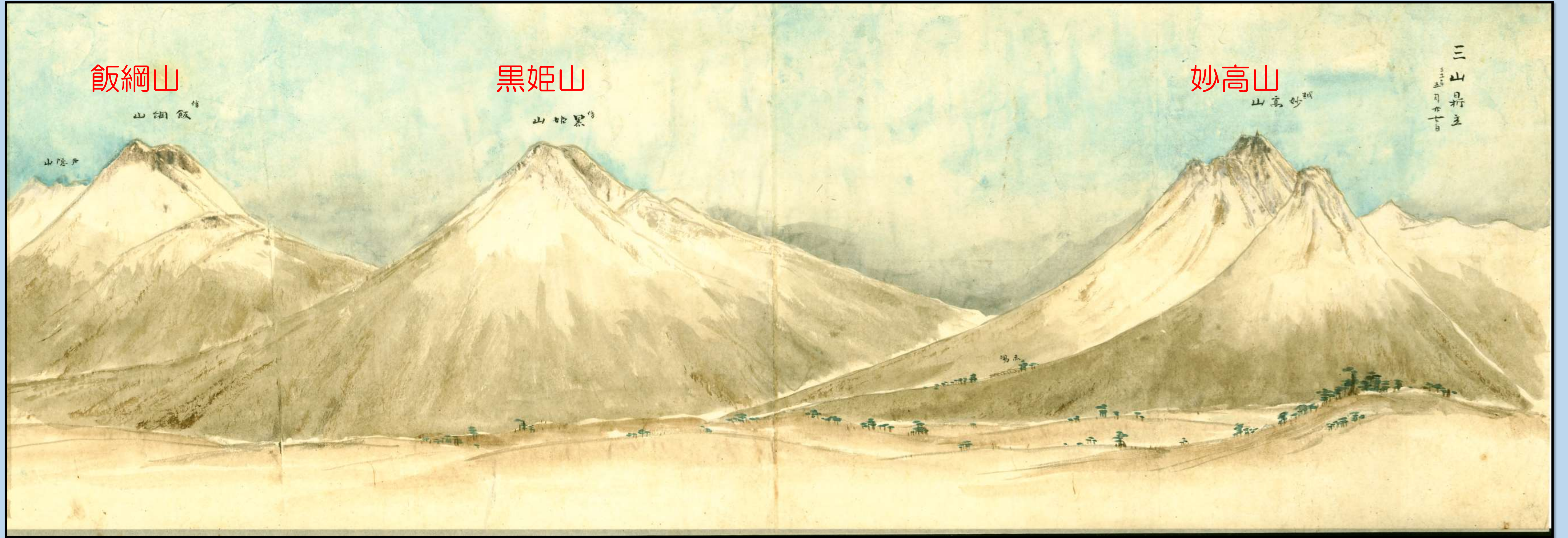


現在の地理院地図
丸印の地点から矢印の方向を見て描いたと思われます。

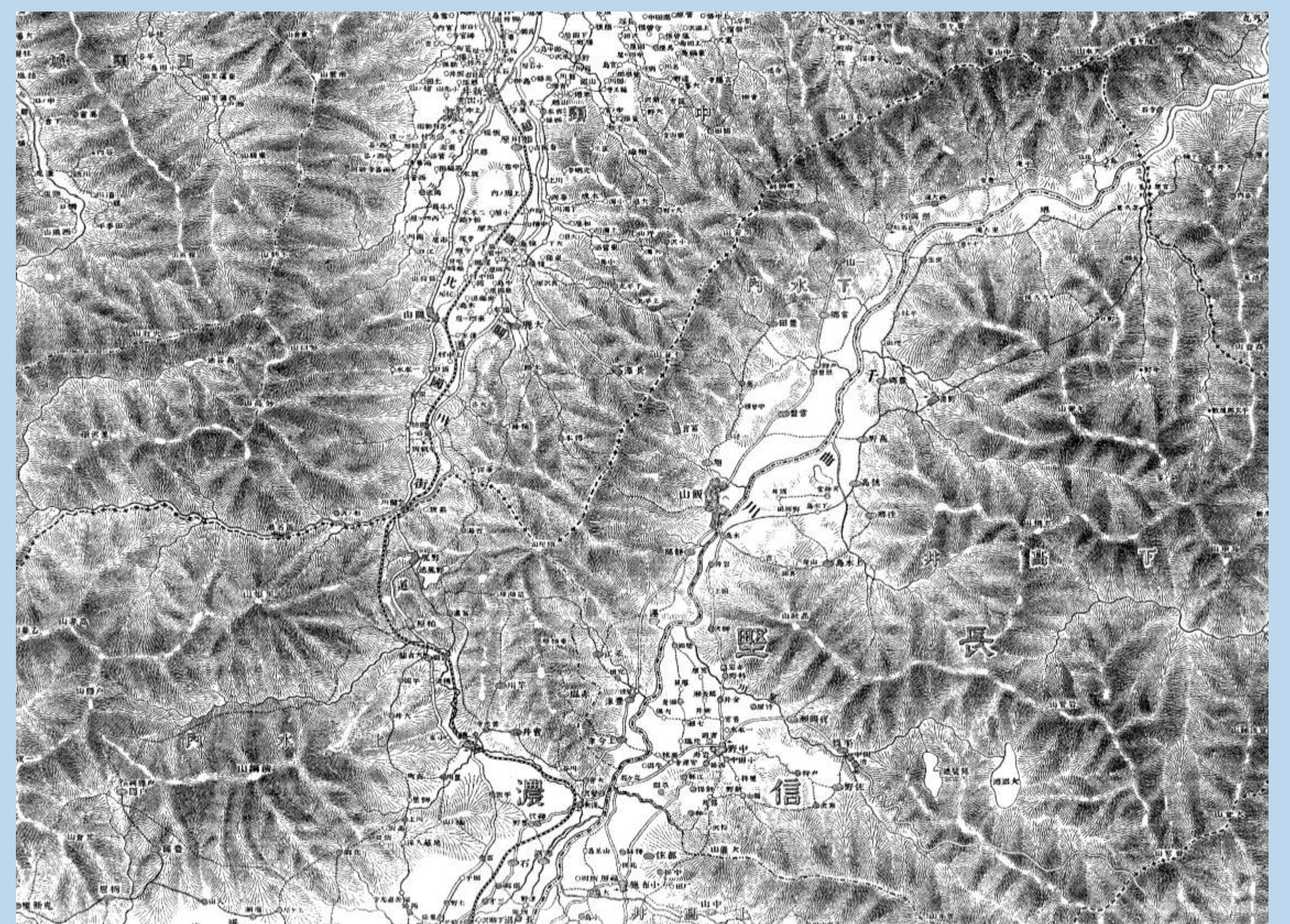
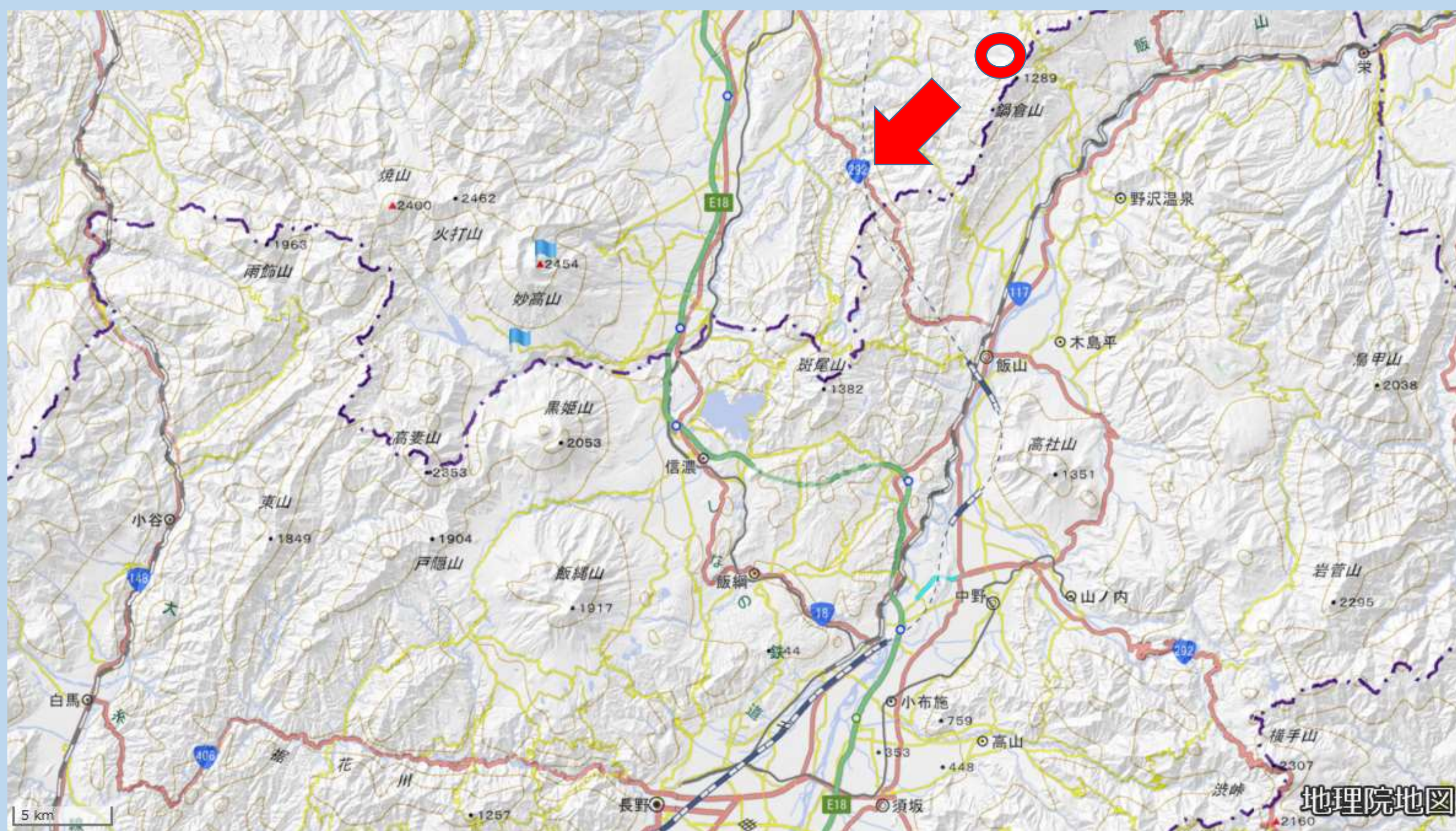


北海道は、ほぼ全域にわたり明治29年（1896年）～同31年にかけて北海道庁による（仮製）5万分1測図が作成されています。

妙高山・黒姫山・飯綱山



地理院地図 3Dで再現した現在の地形



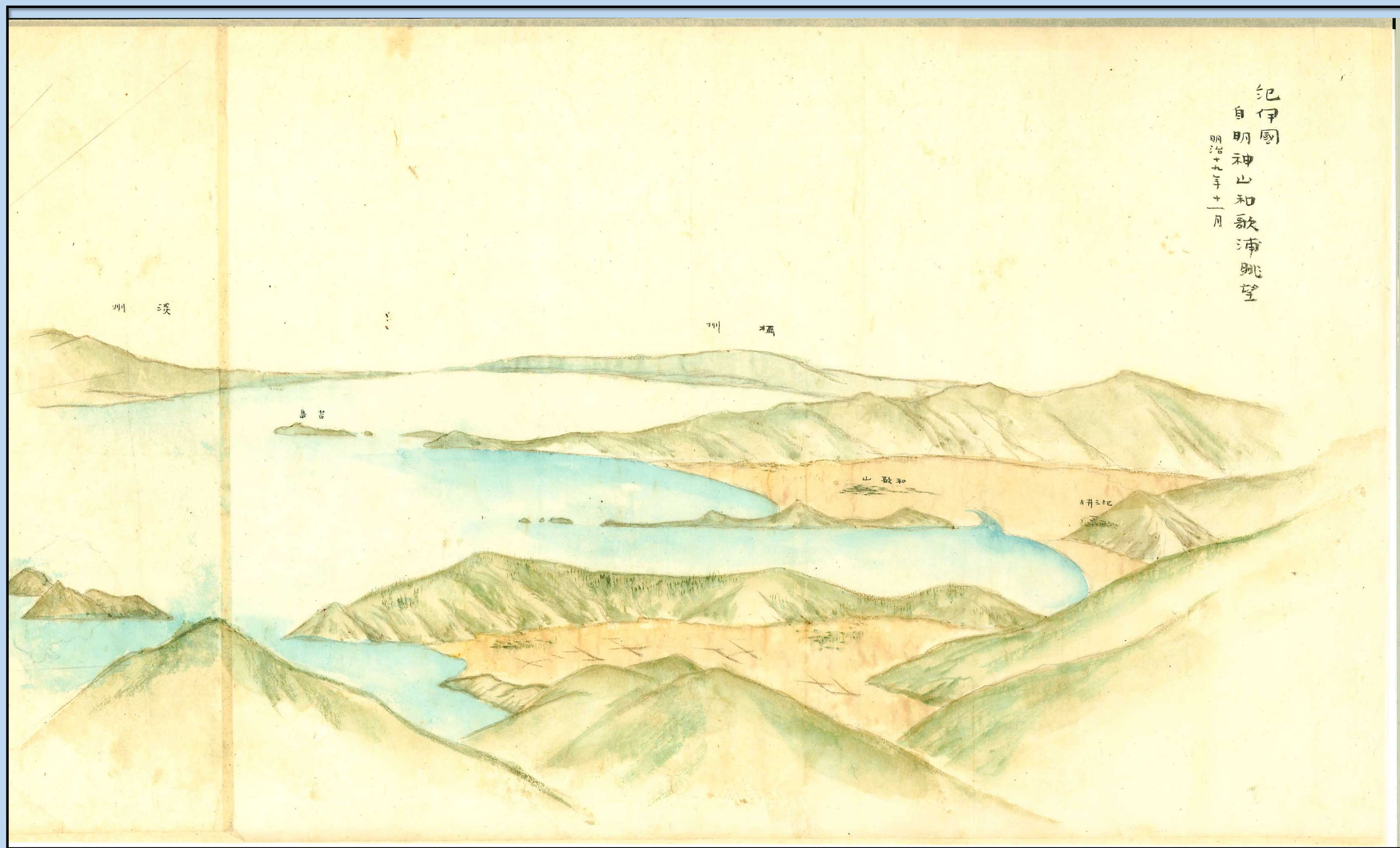
現在の地理院地図
丸印の地点から矢印の方向を見て描いたと思われます。

20万分1輯製図 高田

絵の右上に明治31年5月27日と書かれていますが、この年の5月16日～6月19日まで札幌基線三角網にいましたので、現地スケッチは、現実的には出来ないと思われます。5月27日に描き上げたとすれば、現地スケッチ後の仕上げと考えます。

妙高の選点は明治25年11月ですが、三山を描いた地点の高さや方向、描かれている季節感などから、スケッチの時期は、明治27年10月29日選点の「斑尾山」の時期と想定されます。

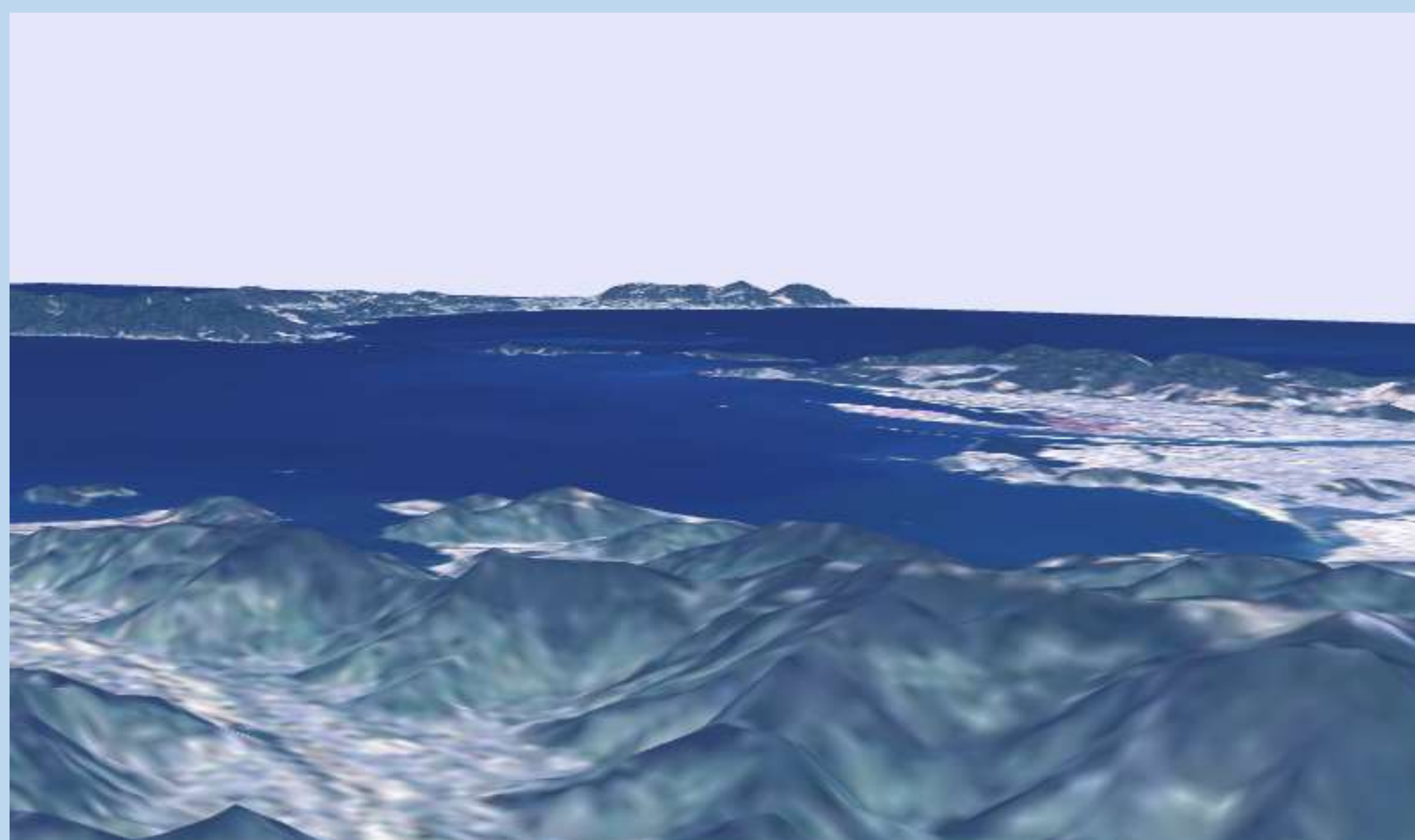
和歌浦眺望



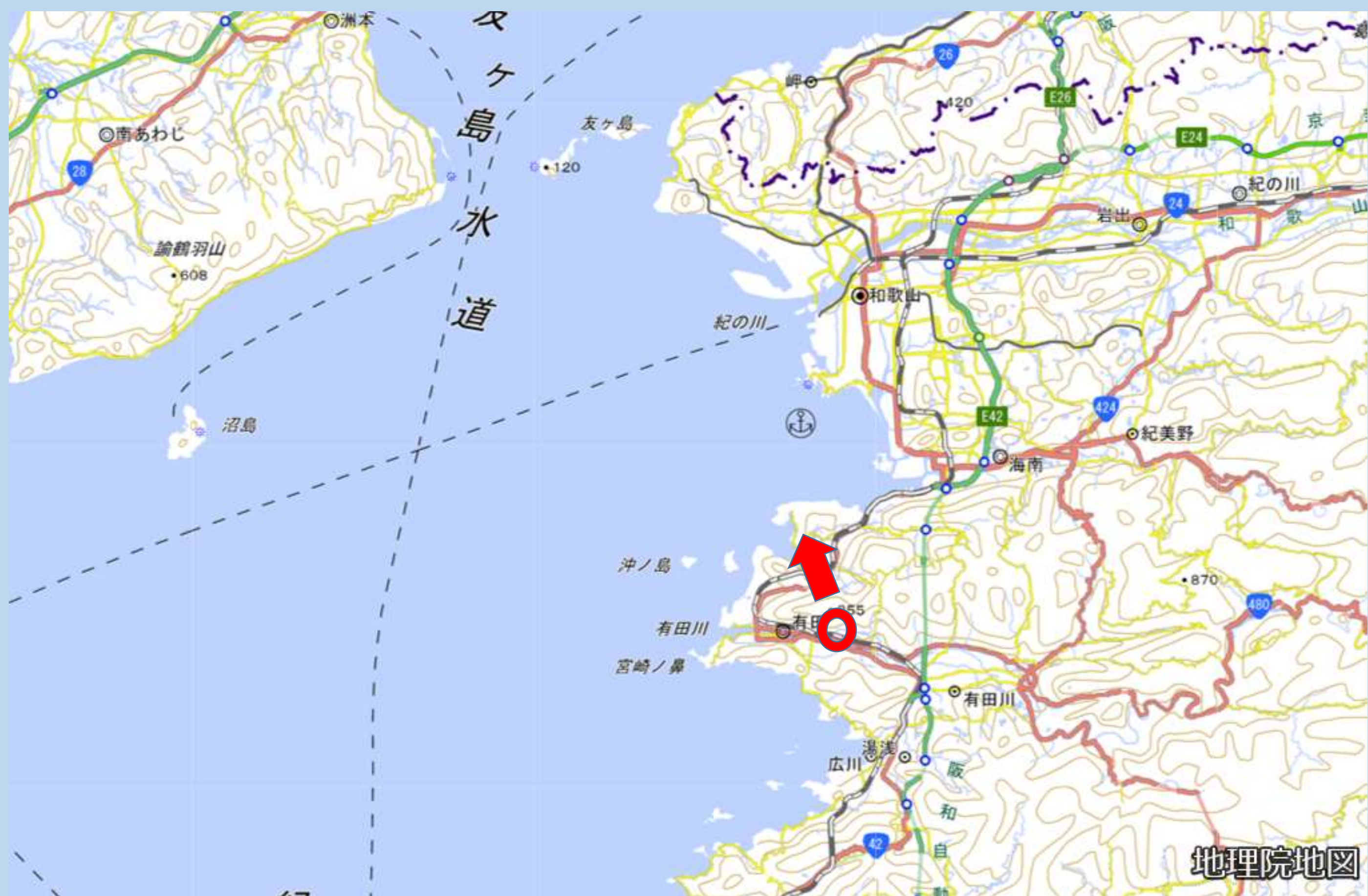
紀伊国紀明神山和歌浦眺望

スケッチ：明治19年11月

場所：有田市の明神山から北方



地理院地図3Dより再現した和歌浦湾



現在の地理院地図
丸印の地点から矢印の方向を見て描いたと思われます。



20万分1輯製図 和歌山

明治19年11月、前年12月同僚の三原昌によって一等三角点が選点されています。点名は「記明神山」で、紀州の紀を冠にしたのは後日のことと思えます。館氏は「自明神山」としています。

弁敷嶺(ベクンネ)



山々の配置を考慮すると、スケッチポイントは“胡多額”のやや南、忠類集落付近ではないかと推定されます。

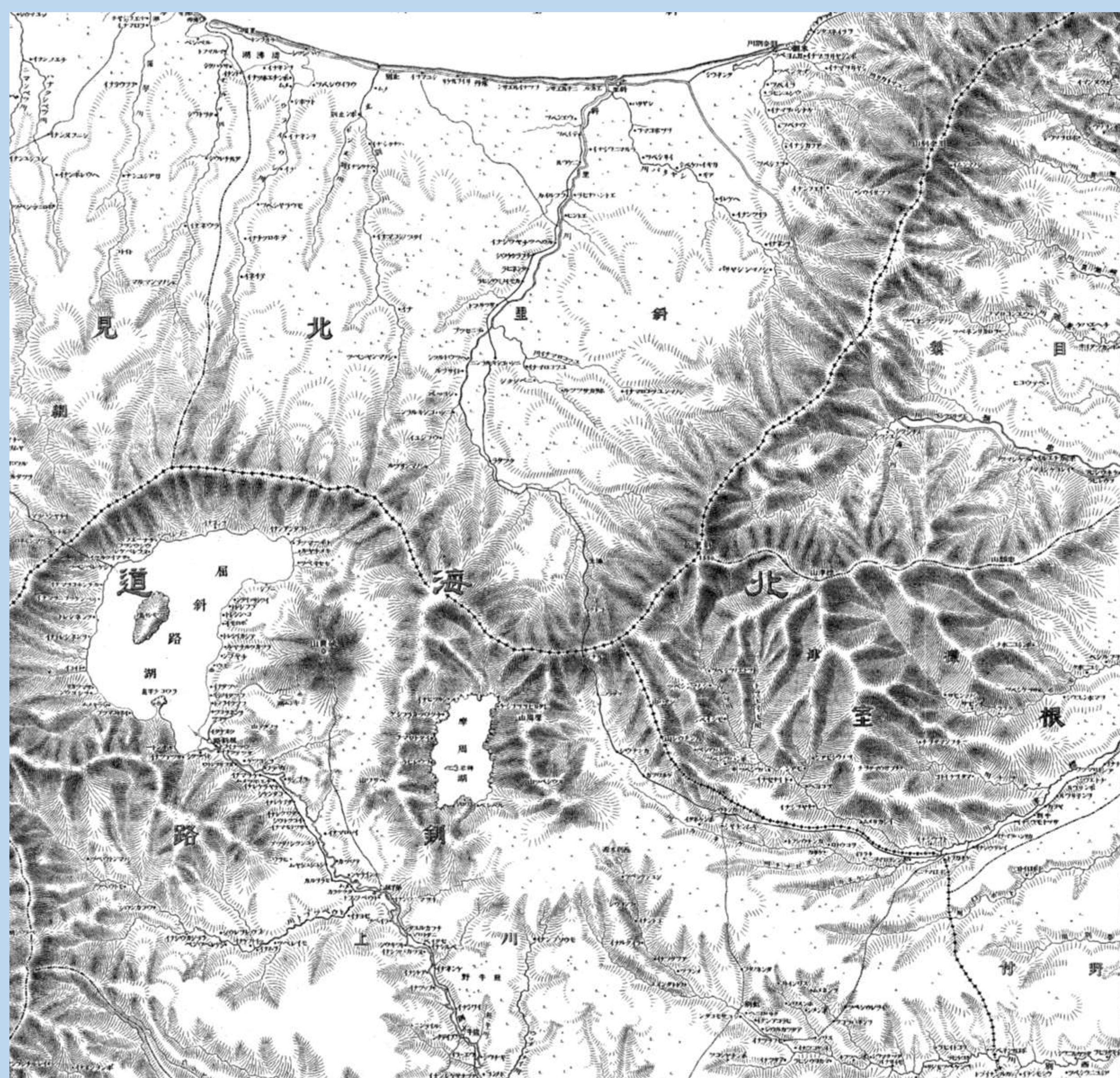


地理院地図3Dで再現した地形

斜里岳の方が弁敷嶺より高く見えてしまいます。



現在の地理院地図
丸印の地点から矢印の方向を見て描いたと思われます。



20万分1輯製図 斜里